

平成28年を振り返って

今年は、元日の自宅～大野湊神社の往復徒歩参拝から始まった。思った以上に遠く、往復6時間かかった。なお、元日徒歩参拝は今年で5年目である。

(平成29年元日の計画はすでにあり、下見も終わっている。後は天気次第である。)

そんな1年も終わろうとしている。

今年の最も大きな出来事は、「教員」ではなくなってしまったことだ。

教育センターでは、学校籍があったため、身分は教員であり、事務職及び指導主事の兼務であった。

県庁では、(年齢及び俸給にもよるのだが)事務職員になってしまった。

そして、付随した出来事として、理科室と理科準備室(研究室)が使用できなくなってしまったことだ。

これは大きな出来事で、図書や工具その他の理科や仕事に関したものの置き場がなくなってしまったことだ。同時に、デスクワークが主になり、庁舎内では座っている時間が大変長くなった。

しかし、学校にいたころと違い、多方面から「教育」について考えることができたし、県全体の小中学校教育を支援する仕事に関わることができた。

しかし、研究活動では壁にぶつかった一年でもあった。

論文審査を受けるために、3年以上在籍、必要単位取得、学会発表、査読論文1本以上が必修条件である。在籍、単位取得、発表はほぼ大丈夫だが、学会の査読論文採択が大きな関門である。

今年2月と9月と2つの学会に投稿したが、どちらも不採択であった。当然甘いものではない。現在も次の投稿へ向けて準備を行っているが、なかなかキツイ。

原因は、学術論文になっていないことである。今までも研究報告等は多く書いてきたが、論の立て方、記述の仕方、内容と完全な自己流であった。

しかし、査読結果は大変参考になる。これだけのサービスを受けることができたなら、学会年会費は気にならない。そして、大学のゼミに参加している全国の優秀な学友と先生(教授)との議論が大変有意義であった。これからもがんばっていこうと思う。

最後に健康面である。

52歳になった。昭和22年の平均寿命は約50歳だとか。

今年も、3月から11月まで、毎朝ラジオ体操と神社までのジョギングを続けてきた。

体力は維持できているが、故障が多かった。

4月の宴会帰りに、歩道と車道の区切りのブロックで足がつまずいて、半年ほど右手の指が動かしにくかった。

6月は前立腺が炎症を起こし、高熱が続き尿が出づらかった。さすがに医者へ行った。新しい職場のため、ストレスがたまったのかもしれない。

社会体育大会で走る競技ではリレーと一周走に出た。走ることはつらくないが、加速しなくなった。周りからは「年の割には速い!」と行ってもらえるが、走っている格好は爺(じい)そのものだろう。残念だが、年齢(とし)を感じてしまった一年であった。体を大切にしないといけない。

このホームページに毎週末駄文(51文)を掲載することができた。我ながらよくやったと思う。来年は続けることができるか?!

最後に、いろいろあったが、充実した一年であったと思う。これからも健康に気をつけ、奥さんと仲良く過ごしていきたい。